備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成24年度事業）

事業の概要

事業開始年度		昭和４６年度～	根拠法令・例規等		廃棄物の処理及び清掃に関する法律
総合計画	大項目	基本目標 01 安全で快適に暮らせるまちづくり	問合先	担当課（室）	環境課
	中項目	基本施策 01 生活しやすいまちづくり		職・氏名	衛生係長・柴垣桂介
	小項目	施策 15 し尿処理		電話	64-1821
事務事業名		01 し尿処理施設維持管理事業	このシート作成に要した時間		2.0 時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	備前地域・日生地域で汲取りトイレまたは浄化槽を利用している市民及び市内事業者
目的（何のために）	備前地域・日生地域にある汲取りトイレまたは浄化槽で発生したし尿・浄化槽汚泥を適正かつ効率的に処理することにより、生活環境の保全につなげる。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	し尿処理施設を適切に維持管理することで、し尿・浄化槽汚泥を適正かつ効率的に処理する

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
し尿処理施設維持管理事業	備前・日生地域で発生したし尿及び浄化槽汚泥を適正に処理するため、し尿処理施設を維持管理する	◎
岡山県し尿処理施設協議会事業	し尿処理施設の管理、運営、整備等について研修等を行い、管理者のスキルアップを図る。	○

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業費等		単位	平成22年度実績		平成23年度実績		平成24年度実績	
決算額 事業費	直接事業費	千円		40,840		32,843		29,704
	必要人員人件費		3.10人	25,436	3.32人	28,179	3.09人	24,929
	事業費計			66,276		61,022		54,633
財源	国県支出金	千円						
	受益者負担							
	繰入金							
	市債							
	その他（　）							
	一般財源			66,276		61,022		54,633
受益者負担比率		%		－		－		－

結果指標名		単位	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
結果指標	し尿及び浄化槽汚泥処理量	説明	事業費を活動コストとし、単位当たりのし尿・浄化槽汚泥の処理費用を算出		
	結果指標量	KL	11,413	11,347	10,985
	対前年比	%	－	99.4%	96.8%
	活動コスト	円	66,276,000	61,022,000	54,633,000
	単位当たりコスト		5,807	5,378	4,973

事業の成果

成果指標名	年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度目標値
１ｋｌあたりの処分費	目標値（A）	5000	5000	5000	5000
	実績値（B）	5031	5807	5241	到達目標値
	達成率（B/A）	100.62%	116.14%	104.82%	4500

成果指標設定の考え方・式や説明

し尿及び浄化槽汚泥の処理費／処分費用（施設維持管理費＋人件費）

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しな

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜ ■ ←「コピー」して「貼り付け」してください ＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性必要性

- ■ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- □ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている

市民ニーズ

- ■ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- □ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**A**

効率性の評価

コスト手段

- □ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- □ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- □ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**C**

有効性の評価

目的達成度市民参画度

- □ 成果指標の設定は適切である
- □ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- ■ 法定事務　・　内部管理事務　であり成果は求めにくい
- □ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- □ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**B**

進行年度（H25年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：現施設の運営にあたっては、コストの削減に努め、法令を順守し適正な処理を行う。
搬入汚泥量の減少とこれに伴う日搬入量の変動が大きくなっているため、計画的に処理日数を削減し、処理量の安定を図る。

総合評価

下水道の普及等によりし尿・浄化槽汚泥の収集・処理量はさらに減少すると予測されるが、法令に基づき今後も事業を継続する必要がある。
施設の運営にあたっては、運転方法の改善に積極的に取組み、汚泥の処分方法を施設内焼却から民間委託でのコンポスト化に切り替えるなど、環境負荷の低減とコストの削減に努めているが、施設の老朽化も進み、今以上のコスト削減は困難である。
現施設は稼働開始からすでに40年が経過し、老朽化が著しいため、3年後の施設更新を目指している。

総合評価（A 高い　B やや高い　C 普通　D やや低い　E 低い）：**B**

Action

平成26年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：現施設の運営にあたっては、法令を順守し適正な処理を行う。
施設更新を目前に控えており、修繕料等を必要最小限に抑えコスト削減に努める。